

グローバル通信

2014.3 vol.32

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

ついこの間入学式だったように思えるのに、季節は巡り、あっという間に修了式の日をむかえる3月となりました。今回は、皆さんの知と汗の結晶である修士論文の題目一覧を掲載しました。また、修論アンケートをいただいて掲載しています。どんな論文を、さてどんな想いで執筆されたのか、興味は尽きません。昨年12月に実施した10周年記念の特集もあります。これからの10年にも思いを馳せながらお読みください。また、全部で五回あった公開講座の最後の二回も掲載しています。

悲しみあり、喜びあり、充実した院生時代を送った仲間を見送る人あり、修了していく人あり。別れの季節ですが、そこには新しい出会いも待っています。桜の蕾も膨らんで、季節は新しい春です。(編集部)

合併10年を機に 若者の創造的着眼と発想を生かした「京丹後市夢まち創り大学」	1
「人力」を養う大学院として	1
2013年度 修士論文題目・感想	3
大学院 NPO・地方行政研究コース 10周年記念シンポジウム	3
公開講演会レポート	4
修了生の今	4
事務局インフォメーション	4



合併10年を機に 若者の創造的着眼と 発想を生かした 「京丹後市夢まち創り大学」

中山 泰 (京丹後市長)

今年の4月1日に京丹後市が合併誕生して10年を迎えます。この記念すべき年に京丹後市としてさらに活性化につながる事業を展開していきたいと思っており、様々な市制10周年記念事業を計画しています。

時を同じくして、来年度以降、京丹後市と京阪神、中部圏との中広域の交通アクセスが大幅に改善する、「北近畿新時代」がいよいよ到来します。今こそ、未来の時代が求めてやまない京丹後の環境、健康、歴史文化などの宝の原石をますます活かし、地域課題の解決と地域の振興を創造していくために、若々しくて創造的な知恵と伸びやかな行動力をもつ多くの大学生・大学院生等の皆さん達がますます本地域に入っていただき、地域に生き地域を愛する住民の皆さんと様々な分野で協働して、夢と活力のあるまちづくりを進めていただくことが、とりわけ重要であります。

現在、京丹後市は域学連携事業として、龍谷大学の富野先生が中心になっていただき、龍谷大学をはじめ地域連携のノウハウのある関西圏・関東圏をはじめ全国の10以上の多様な大学と連携し、市域において大学生・大学院生等による創造的な着眼と発想に基づく持続可能で発展的な地域課題の解決と地域振興を進めています。大学側からは、この活動をもって大学の教育活動の一環となる実践的カリキュラム(学生の単位取得)の開発が進められており、両機能が首尾よく連携することによる大学活動創造と地域振興の両立・構築が進んでいます。

今後の域・学双方の発展を展望する上でとても意義深く思いますのは、このような域学一体的な連携事業を、京丹後市域においてさらに継続的・戦略的かつ包括的・体系的に構築いただくことにより、単発の域学連携をたまたま一つの地域で複数独立で行うようなケースと比べて、①参加大学間の“学学連携”及び②個別の参加区域間の“地域連携”が同時多発的かつ体系的に構築され、域学の連携が縦横3次元に広がりゆくとともに、③参加学生と参加学生OBとの交流にも発展しうるなど4次元の時間軸も含めた、戦略的・実体的な諸活動の発展が大きく期待できることです。

このことは、あたかも京丹後市域において、一の実体を有する体系的・包括的な大学機能が存在するといえるものであって、このような展望を具体化し、かつ、関係者間で共有・共創し持続発展させていくためにも、21世紀の新しい時代の地域における大学機能の展開・発展を考えるにふさわしい、この一体的大学機能をもって「京丹後市夢まち創り大学」と位置付けて、富野先生をはじめ各大学の先生方に御指導いただきながら、龍谷大学をはじめたくさんの若者たちとともに、将来の京丹後のまちづくりを躍動的で夢いっぱい築いていきたい。

「人力」を養う 大学院として

榛木 恵子

(特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会
事務局長代行)



グローバル通信の「NPO・地方行政研究コース開設10周年記念シンポジウム」の見出しを見ると思い出します。10年程前ですが、大林穂さん(経済学部名誉教授)、石川両一さん(故経済学部教授)が、関西 NGO 協議会にそれぞれ訪ねて来られました。そして新設される大学院、NPO・地方行政研究コースは、推薦入学試験制度を設けているので、関西 NGO 協議会の加盟団体のスタッフ育成プログラムとして、龍谷大学大学院という教育機関を活用するべしという助言を頂きました。

NGOにおいて、人材育成は重要な課題です。次世代を担う人材は? 育成の制度は? の問いかけは、NGO(国際協力民間団体)にとって、すっぴりとくる重い問いです。

NGOは、途上国の「民」との関わりの経験の数値は高い。しかし、学術的な視点を持って「貧困、環境、人権、平和」を阻害するシステムの要因を複合的に発見し、分析する方法論を学ぶ機会、スタッフ自らが求めて維持していく意欲をもっていないと失われていきます。仕事場から学びの場への転換が当たり前でできる環境、続けられる資金の確保、目の前の現実にとらわれてしまい、現場で得た情報を世界的な課題として研究する意識が深められないなど、様々な要因が考えられます。

NGOの役割は、人に活かされない、いのちが脅かれる要因を、多種多様な人々、社会を構成している各セクターに提案、提言し、共感をうみだし、変化を創る事業を持続させることです。グローバル化の真ただ中で、取り除くべき課題に向き合い、解決していく「人力」を養うことが不可欠です。

10年の軌跡においてNPO・地方行政研究コースは、職場から直結した学びの場となり、指導して頂ける先生達との出会いの場として、他のセクターに刺激を与えてくれる仲間を発掘できる場となりました。

今後も、大学、NGO/NPOの連携による人材育成・交流が反映される研究コースとして、「人力」の育成を担う役割に期待します。20周年記念事業が楽しみです。

2013年度 修士論文題目・感想

2013年度 修士論文・課題研究題目一覧

No.	研究科	氏名	題目
1	政策学研究科	今里 美香	地域福祉を担うコミュニティワーカー - 大阪市のネットワーク推進員を中心に -
2	政策学研究科	大藪 汐織	セーフコミュニティ認証によって生じた亀岡市の協働型施策の分析中
3	政策学研究科	梶本 武志	清酒に関する政策の展開と酒造業の活性化政策 - 京都市酒造業を事例に
4	政策学研究科	佐野 光平	大学における戦略的な地域連携センターに関する研究 - 地方都市の私立大学を事例として -
5	政策学研究科	竹本 真梨	京都市東山区六原地区における防災まちづくりの実態とその展開 - 有機的ネットワークがまちの総合性に与える影響に関する研究 -
6	政策学研究科	中川 健	市民参加予算による自治体予算改革の課題と展望 - 代表制民主主義を補完する熟議民主主義の可能性 -
7	政策学研究科	船本 佳裕	大卒就職選抜の能力定義に大学教育が果たす可能性についての一考察 - 大学教育で得られる教養としての正統的文化資本に注目して -
8	政策学研究科	譚 浩嬌	中国中小企業の知的資産経営の推進に関する研究 - 中国広東省中小企業の人材流失の引き留め策を中心に
9	政策学研究科	金澤 徹	FIT 制度以降の木質バイオマス発電の展開と林業の自律的發展
10	政策学研究科	矢野 孝一	市民の公益活動を支援する助成財団等に関する考察 - 我が国における助成財団の類型化と、事業助成の現状と課題 -
11	政策学研究科	岡田 覚	大阪市の組織改正の変遷についての一考察 - 区長公募制の導入を中心に -
12	政策学研究科	兼次 賢一	教育素材としての創作エイサーの可能性
13	政策学研究科	黒澤 英昭	貧困の世代間連鎖に立ち向かう学習支援の取組 ~ 京都市における生活保護世帯の子どもに対する中3学習会の現状と課題 ~
14	政策学研究科	坂西 卓郎	国際協力人材育成研修によるアウトカムを内部評価するための手法の考察 ~ PHD 協会の研修生をメタファシリテーション手法でインタビューした結果を基に ~
15	政策学研究科	林 久善	地域コミュニティへの市民参加について - 大阪市における地域活動協議会を事例に -
16	政策学研究科	古尾谷 雅博	自治体行財政改革の行方 ~ 1970年代の天津市の先駆的取組と今日の多治見市の事例から ~
17	経済学研究科	中村 紀之	公共サービス型 NPO における委託事業積算とフルコストリカバリー - 具体事例を通して -

大学院 NPO・地方行政研究コース 10周年記念シンポジウム 「地域公共人材の挑戦 - 枠を超え、今を越える -」

●シンポジウム

NPO・地方行政研究コースは2003年度創設され、着実に歩みを重ねて来ました。正確には昨年度が10周年でしたが、満を持して2013年12月7日(土)10周年を記念するシンポジウム「地域公共人材の挑戦 - 枠を超え、今を越える -」を本学深草学舎にて開催しました。

「地域公共人材」今では各所で使われるようになったこの言葉は、本コースと龍大LORCの研究でつちかわれてきたもの。コースの名前そのものが、地域課題にとりくむ人材とくに職業的専門人をセクターを「超えて」養成しようとしてきたその視角を示していますが、そこから10年を経て、地域課題に対するには市民、企業、自治体の連携が必要という認識は当たり前になりました。ですが、その認識はまだ現実を十分に変えていません。コース設置から10年、そんな現在を「越える」ことを構想するシンポジウムとなりました。

第一部では、さまざまなセクターで課題にとりくむ、またその人材を育成する視点から、それぞれの事例をまじえ語っていただきました。

第二部ではまさに「セクターを超えて」活躍されるお二人から、第一部の議論を受けて、そうした人材が活躍しうる職場や社会をめざす視座をご講演いただきました。

地域連携協定先、一般来場者、本コースOB・OGや院生、ほか学生や教職員を含む約80名の聴講者が来場し、長時間のシンポジウムを熱心に聴講していました。

終了後のレセプションでは、登壇下さった方々や関係者が多数参加し、まさにセクターをこえたにぎやかな交流の機会となりました。



おつかれさま! 修論アンケート

- ①修士論文・課題研究を書き終えた、今の気持ちを聞かせて下さい。
- ②修士論文・課題研究を書くにあたっての注意点があれば、お願いします。
- ③これから書く後輩へ一言。

これら3つの項目について回答をお願いしました。

坂西卓郎さん

- ①悔しい一言。仕事との両立、自分の能力不足で先生方にご指導いただいたことを十分に修論に反映できなかった。
- ②社会人学生は論文の作法などをきちんと勉強して書いた方がいいです。自分が十分にできなかったという反省ですが。
- ③がんばって下さい。先生方や仲間が居るので仕事や家庭との両立は大変だと思いますが、きっと乗り越えられると思います。

金澤徹さん

- ①正直、出来は良くないなと思いつつ、ホッとしています。年齢的な問題もありますが、現職の時以上に、精神的にまいりました。

梶本武志さん

- ①まだまだ書き足りないと思っていますが、書ききったことは自信になりました。
- ②入念にバックアップを取っておくこと。
- ③良い論文が書けることを期待しております。

矢野孝一さん

- ①提出を終えて、ホットする一面もありますが、それ以上に寂しい想いの方が大きいかもしれません。今は「もっと突き詰めたい。」そんなポジティブな気持ちを感じています。
- ②テーマの設定を、夏休みまでには決めることが何よりかと思えます。その後の日数を考えると、特に社会人の方は時間的に厳しいと思います。資料や情報が揃ってからが本当のスタートであり、まとめや考察には前段以上に時間が必要であることを想定しておく必要があります。
- ③テーマを決める前に、出来るだけ多くの先輩方の修論等を読んでみて、そのボリュームや自身の場合の時間のかけ方を想像しておくことだと思います。その上で、テーマや研究方法を決めることも重要だと思います。

黒澤英昭さん

- ①モヤモヤとした思いを文章にできたのは貴重な経験でした。
- ②先生と定期的に打ち合わせをする。
核となる本を数冊読み、気になる箇所にはフセンを貼り、文章の抜き出しメモを作り、論文目次案に添って並び替えて、論文の荒い原稿案を作りました。年末年始の休みでようやく形になりました。
- ③形になるまでは苦しいけど、終わればいい思い出です！

●プログラム

<第1部> 13:30 ~ 15:00

討論 枠を超える／現場からの発信

コーディネーター 深尾昌峰

登壇者 (五十音順)

小林美智子 氏 (茨木市議会議員・2012年度修了生)

齊藤 徹 氏 (株式会社アグティ取締役)

中原 一憲 氏 (明石市人事課係長)

南 珣賢 氏 (NPO 法人京都コリアンセンターエルファ事務局長)



<第2部>

講演 今を越え、未来をつくる

司会 土山希美枝

講演者 (登壇順)

堀 孝弘 氏 (生駒市環境経済部次長・2010年度修了生)

逢坂 誠二 氏 (本学政策学部客員教授／前衆議院議員)



10周年記念誌刊行

シンポジウムにあわせて、記念誌を刊行しました。OB・OG、現役生が多数参加し作られた記念誌は、学長のメッセージや創設時を語ったインタビュー、さまざまな現場で活躍するOB・OGの姿、貴重な資料などで構成された読み応えのある一冊となり、好評を博しています。※本記念誌をご希望の方は、政策学部教務課へご一報下さい。



公開講演会レポート

第4回

歴史・文化の香る地域の魅力を未来へ ～お茶の町の再生を賭けた宇治市の取り組み～

講師：宇治市都市整備部 歴史まちづくり推進課 主幹 杉本 宏 氏

宇治市歴史まちづくり推進課の杉本氏は、文化財保護法や歴史まちづくり法を活用することで「国指定史跡宇治川太閤堤跡」の整備を進めています。ここは観光資源になることはもちろん、住民が宇治を知り、宇治に誇りを持つための拠点となるものです。宇治の文化的景観は、歴史を重ねて発達した現在の宇治の町に、茶の製造や茶園など伝統的な生業の風景が息づく国民の生活や生業を理解する上で、欠くことのできない個性的な文化的景観です。

歴史あるものの中に新しいものを織り成しあいながら、そこで生活する住民もその一部となる。そのような心根をもってまちづくりを考えていきたいと思いました。

(中村麻衣子 政策学研究科)



第5回

日本の原子力発祥の地 東海村村長の脱原発論 ～村長を勇退するにあたって伝えておきたいこと～

講師：東海村前村長 村上 達也 氏

茨城県東海村は、「日本の原子力発祥の地」。4期16年にわたって村長を務めてこられた村上氏は、5期目には立候補されないことを表明し勇退されました。「13もの原発がある関西の人にフクシマのことをよく知ってもらいたい」。原発が集中する地域に住む私達こそがこの問題に正面から向き合う必要があるのだとおっしゃいました。

見て来られた浪江町は、原発に近いところは津波に破壊されず、そのままの姿で残っているのに、人っ子一人居ない状態。原発で明るい未来の看板は、ナチスドイツの「働けば楽になれる」の看板を思い起こさせました。震災の日、まさに東海村も危機一髪の状態だったそうです。こんな危険なものに日本の将来は委ねられない。東海村は原発が生まれた町だから、原発を終わらせる決断をする。これからは地方分権の時代。アンチ中央の拠点として関西は重要な場所となるのだと。

現状として、日本では原発は一基も稼動していない今考え、行動するチャンスがあるのだと気付かされました。参加した院生にとっても非常に学びの多い場となりました。

(千葉有紀子 政策学研究科)



修了生の
今

石田 浩基 (2012年度修了)



早いもので大学院を修了してから1年が経ちました。

現在は京都市内で、地域に役立つ人材を育てる仕事をしています。日々、「地域公共人材とは何か」、「協働とは何か」という疑問と顔を突き合わせる毎日です。大学院のころに、授業で学んだことを、まさに今、実体験しています。

仕事柄、行政やNPO、大学関係の方とご一緒する事が多いのですが、物事がうまく進まない時にいつも思い出すのは「つなぐ・ひきだす」という言葉です。まだまだ自分に、その能力は身につけていないのかなと思うとともに、これが社会で役立つ力だと感じています。現役の学生のみならず、せっかく龍谷の政策で学ぶのなら、こうした力を身に付け、役立ててほしいと思います。

事務局 インフォメーション

●政策学研究科 海外フィールド研究・修士論文報告会

日時：2014年3月8日(土) 13:00~16:30

場所：龍谷大学深草学舎22号館104教室・105教室

●学位記授与式

日時：2014年3月15日(土) 10:30~

場所：龍谷大学深草学舎顕真館

●法学研究科 修士論文発表会(社会法)

日時：2014年3月15日(土) 13:30~

場所：龍谷大学深草学舎紫英館2階第1共同研究室

●入学式

日時：2014年4月1日(火) 14:30~

場所：龍谷大学深草学舎体育館

NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻32号 2014年3月

発行／龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース

連絡先／政策学部教務課

TEL: 075-645-2285 FAX: 075-645-2101

H P / http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/

編集 集 / 片岡華絵、千葉有紀子

編集補助 / 中西美也子

監修 / 大矢野修、松浦さと子、土山希美枝、的場信敬

印刷 / 株式会社 田中プリント